

畢婆迦羅像

国宝

これは八部衆の一人、畢婆迦羅の像である。マホーラガとも呼ばれ、古代インドの神であったが、仏教に取り入れられた。マホーラガは蛇を神格化したといわれ、蛇のような属性を持った楽人として記述されている。

この畢婆迦羅像は他の八部衆の像の多くと同様に鎧を身にまとった姿をしているが、あごひげもたくわえている。他の像のいくつかが若い少年の顔をしているのに対して、これはそうではない。この像は734年につくられた。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。